

コンラート・ゲスナー『万有書誌』の 印刷ヴァリエーションについて

雪 嶋 宏 一

Summary

Waseda University Library, Tokyo, houses a perfect copy with 650 leaves of Conrad Gessner's *Bibliotheca universalis* (Zürich: Christoph Froschauer, 1545). It had been owned by the library of the Benedictine monastery at Tegernsee, Bayern, Germany (Fig. 1). After judging by the manuscript notes on the flyleaf (Fig. 3), the monastery evaluated this book at a lot of records of the Catholic authors together with the Protestant ones, therefore the monastery had held this copy, although the book was prohibited by the Roman Catholic Church. The author of this article investigated four copies of the *Bibliotheca universalis* housed by Zürich Central Library. One of these copies was Gessner's own copy (Dr M 3: Copy A) in which lines 4-30 of fol.454 (signature 2g4) verso were crossed out mostly by Gessner and a small piece of paper printed 11 line sentences reduced from the lines 4-30 was pasted in the lower margin. In the lower margin of fol.455 (2g5) recto of Copy A was also pasted a piece of paper printed new 18 line sentences of fol.454 verso. These two kinds of text are identified lines 4-14 and 15-32 of fol.454 verso of Konrad Pellikan's copy (IV O 2: Copy B), another of four copies at Zürich Central Library. In carefully comparing with Copy A and Copy B, it is clear that four pages from fols.453 (2g3) recto to 454 verso of Copy B were printed

anew. These four pages consist of outer and inner formes of signatures 2g3 and 2g4, so that after the original version of 2g3 and 2g4 had been completed printing, Gessner revised the sentences and C. Froschauer renewed these two formes and printed them again. As a result of the research of Gessner's *Bibliotheca universalis*, it is clear that a sheet of the original version of 2g3 and 2g4 is cancellans and a sheet of the revised version of 2g3 and 2g4 is cancellandum. The other copy (IV O 4 & IV O 5) at Zürich Central Library is original as same as Copy A. The Waseda copy and other three copies of the *Bibliotheca universalis* in Japan are revised as same as Copy B.

1. はじめに

早稲田大学図書館が所蔵する洋書貴重書の中にスイス16世紀の博物学者コンラート・ゲスナー (Gessner, Conrad, or Konrad, 1516-1565) が1545年に著した『万有書誌 *Bibliotheca Vniuersalis*』 (Zürich: Christoph Froschauer) がある。本書は、第1部著者名目録、第2部分類目録、第3部主題索引の3部構成の第1部として刊行されたものである。実際には第1部は予定通り刊行されたが、第2部は全21分類で構成されて、第1-19分類が『総覧 *Pandectarum*』として1548年に刊行され、第21分類が『神学の分類 *Partitiones Theologicae*』として1549年に刊行されたが、主題索引は独立した巻とはならず、『神学の分類』の巻末に当初の予定を大幅に縮小して付けられたにすぎない。第20分類医学は刊行されず、分類目録は未完に終わった。しかしながら、『万有書誌』は西洋書誌学の基礎を築いた書としてつとに知られ、図書館情報学の古典の一つとみなされている。ところが、これまで日本国内では本書に関する書誌学的な研究はあまり行われることがなかった⁽¹⁾。また、広く世界に目を向けても本書に関する言及はあまたあるものの、本書の内容を解明した書誌学的研究は限られており⁽²⁾、未だ研

究の余地が残されているものである。

本稿では本書の書誌学的研究を進めるために、まずは早稲田大学図書館所蔵のコピーを紹介してから、次に筆者が最近発見した『万有書誌』の印刷上のヴァリエントについて明らかにして、早稲田大学図書館所蔵本を位置づけ、これまで知られることのなかった本書の成立過程について考察してみよう。

2. 早稲田大学図書館所蔵の『万有書誌』（図1）

早稲田大学図書館所蔵の『万有書誌』を記述書誌学に基づいて書誌を以下に記述してみよう⁽³⁾。

Gessner, Conrad (1516-65). *Bibliotheca Vniuersalis*. Tiguri: Apud Christophorum Froschouerum, 1545. folio.

Title, 1^r (*1): BIBLIOTHECA | Vniuersalis, siue Catalogus omni= | um scriptorium locupletissimus, in tribus linguis, Latina, Graeca, & He= | brica: extantiam & non extantiu<m>, ueterum & recentiorum in hunc usq <ue> | diem, doctorum & indoctorum, publicatorum & in Bibliothecis lat-en= | tium. Opus nouum, & no<n> Bibliothecis tantum publicis priuatisue in= | stituendis necessarium, sed studiosis omnibus cuiuscunq<ue> artis aut | scientiae ad studia melius formanda utilissimum: authore | CONRA-DO GESNERO Tigurino doctore medico. | [device: Vischer 1991, p.544, Offizin Froschauer 6] | TIGVRI APVD CHRISTOPHORVM | *Froschouerum Mense Septembri, Anno* | M. D. XLV.

Explicit, NN7^v, line 8: FINIS.

Folio, *⁸, A⁶ B⁴, a-z⁶ ²A-²B C-Z Aa-Zz 2a-2z AA-MM⁶ NN⁸ [signed \$4 (*5, B3, NN5)]. 650 leaves, ff. [8], [10], 1-631, [1].

BIBLIOTHECA

Vniuersalis, siue Catalogus omnium scriptorum locupletissimus, in tribus linguis, Latina, Graeca, & Hebraica: extantium & non extantium, ueterum & recentiorum in hunc usque diem, doctorum & indoctorum, publicatorum & in Bibliothecis latentium. Opus nouum, & non Bibliothecis tantum publicis priuatis instituentis necessarium, sed studiosis omnibus cuiuscunque artis aut scientiae ad studia melius formanda utilissimum: auctore

CONRADO GESNERO Tigurino doctore medico.

*Finet ad inuictum Monasterium Sigeronense
vnd. d. Bihed in Barbara Sigeron.*



Sigeronense.

TIGURI APVD CHRISTOPHORVM
Froschauerum Mense Septembri, Anno
M. D. XLV.

*Ms.
237*

図1 早稲田大学図書館所蔵『万有書誌』(F026-36)第1葉表(*1)標題紙

Contents: *1^r, title; *1^v, AD LECTORES.; *2^r, ILLVSTRI ET GENEROSO | VIRO D. LEONARDO BECKH A BECKENSTAIN, | S. Caesareae maies-
tatis consiliario clarissimo, CONRA= | DVS GESNERVS medicus S.D.P.;
*6^v, line 10, Vale, meq<ue> clientem tuum ita ut caepisti fo= | uere perge.
Tiguri, quae primaria Heluetiorum urbs est, anno Chri= | stiano, 1545.
Mense Iulio.; *7^r, line 20, Haecante | operis ingressum habui, de quibus |
Lectores admonerem.| *7^v, PRAEMIA VIRTVTIS FELICIA CONSPICIS
ARMA. | [woodcut of coat of arms, 192 x 139 mm]; *8, blank; A1^r, AD
LECTOREM DE VSV | HVIVS INDICIS | (10 lines) | id quaque ex hoc In-
dice deprehendetur, Vale. | (index in 3 cols.); B4^r, line 12, FINIS.; B4^v,
blank; a1^r, text; NN7^v, line 8, FINIS. | EMENDANDVM. | (3 lines); NN8,
blank.

a4^r, text in 51 lines and headline, direction line and marginalia, 241 (251) x
137 (157) mm, 93R, 93Gr; *3^r, preliminary in 42 lines and headline and di-
rection line, 240 (248) x 140 mm, 112R, 93Gr; A1^r, index in 3 cols., each col.
in 55 lines, 86R.

Reference: VD16, G 1698⁽⁴⁾; Vischer 1991, S.136, C 350⁽⁵⁾.

Copy: Waseda University Library, F026-36. 322 x 200 mm, bound in
wooden boards covered with contemporary blind stamped pig skin. MS
notes on flyleaf verso:

Iste author est accatholicus, | hinc tam diligenter scribit de Philipo
| Melanctone, et Martino Luthero &c. | licet etiam alios Scriptores
Catholicos | suâ laude non destituat, eorúmqu<ue> | opera ac Elucu-
brationes adducat. | In hoc tamen singularem laudem meretur, | quòd
Bibliothecam universalem Librorum | editorum congerere sit cona-
tus; quantumuis | multos, qui in nostra Bibliotheca sunt, | non habeat.
Et, quod miror, de Erasmo | Roterodamo [sinistra: 'vidi Desider.'], vix

non coetaneo, altum | silentium tenet, cùm tamen tum tem | -poris
iam plures libros ediderit, et adhuc | in plurib<us> laboraverit eden-
dis c<etera>.

(拙訳：この著者は非カトリック教徒であり、メランヒトンやルター等について入念に記述しているとしても、その上で、他のカトリック教徒の著者を彼の賞賛から置き去りにせずに、彼らの作品とさらに労作をも導いている。今なおやはり、『万有書誌』が出版された書物を集める努力をしているという点で特別な賞賛に値する。たとえ我らの図書館にある多く本を彼が持っていないとしても。そして、ほとんど同時代であるロッテルダムのエラスムスについて深い沈黙を保持している点は驚くべきことである（左側に後代の書き込みで「Desideriusを見よ」）。その時代に彼は多くの本を出版し、その上多くの出版されたもので苦勞したにもかかわらず、云々。)

Provenance: (MS on *1^v) Benedictine Monastery, Tegernsee, Bavaria, pressmark 'ng | Z37.'; (stamp on a slip of paper pasted on NN7^v) Dr. Pásztélyi Jenő, könyvtárából, Szám: 1502 (Fig.4). The library bought the copy from Peter Tumarkin Fine Books, New York in July 1992.

本書はゲスナーの初期の代表作『万有書誌』の第1部著者名目録であり、白紙葉2葉を含む全650葉の完全本である。本書の構成は過去にも述べたこともあるが⁽⁶⁾、補足して説明しよう。第1葉表(*1^r)が標題紙でタイトル、印刷者の商標、刊記が印刷され(図1)、第1葉裏(*1^v)には著者から読書への本書を利用する上での注意事項がある。第2葉表(*2^r)から第7葉表(*7^r)までが神聖ローマ皇帝の助言者レオンハルト・ベック・フォン・ベッケンシュタイン(Leonhard Beck von Beckenstein, 1517/18-75)へ献呈したゲスナーの宣誓書簡(Epistola nuncupatoria)であり、本書執筆の経緯と本書の3部構成、本書の情報源となる図書館名と参考図書の一覧、本文欄外余

白の T が情報源となったトリテミウスの書 (Johannes Trithemius, *Catalogus ecclesiasticorum scriptorium*, 1494) であることなどを説明している。第7葉裏 (*7^v) はレオンハルト・ベック・フォン・ベッケンシュタインの紋章の木版画である。第8葉 (*8) は白紙となる。第9葉表 (A1^r) から第18葉表 (B4^r) までが著者名索引、第18葉裏 (B4^v) は白紙となる。第19葉表 (a1^r) から第349葉裏 (NN7^v) までが本文であり、著者名の名姓のおおむねアルファベット順に配列された著者名目録である。第349葉裏には訂正事項 (Emendatum) がある。最後の第350葉 (NN8) は白紙となる。

本書を印刷出版したクリストフ・フロシャウアー (Froschauer, Christoph, 1490-1564) は1517年から64年までチューリヒで活躍した印刷業者で、16世紀中葉のチューリヒにおいては唯一の業者であった。彼はルター (Luther, Martin, 1483-1546) やエラスムス (Erasmus, Desiderius, 1466-1536) の著作の印刷を盛んに行い、同時にツヴィングリ (Zwingli, Huldreich, 1484-1531)、その後継者プリンガー (Bullinger, Heinrich, 1504-1575) の著述の大半を世に送り出すなど、プロテスタント系のドイツ語出版物を幅広く扱った。また、ドイツ語新約聖書を19回、ラテン語新約聖書11回、ドイツ語聖書を18回、ラテン語聖書を11回も刊行して、聖書を主力商品としていた。ゲスナーの著作についてもその大半を刊行しており、ラテン語の学術書もよく刊行した。フロシャウアーは1543年春にゲスナーとともにフランクフルトの大市に出かけて書籍を販売し、またヨーロッパ各地の印刷出版業者と情報交換している。フロシャウアーは生涯に712版を刊行した⁽⁷⁾。印刷所は息子のクリストフ (Froschauer, Christoph der Jüngere, 1532-85) に引き継がれた⁽⁸⁾。

早稲田大学図書館所蔵本は出版後まもなく、16世紀当時に南ドイツで行われていた製本様式である空押し豚革で装丁された (図2)。館蔵本はドイツ、バイエルン地方のテーゲルンゼーにあったベネディクト会修道院の旧蔵書であったことが標題紙に手書きで記されている (図1)。フライリーフ裏には16世紀後半以降の書き込みがある (図3)。おそらくこの修道院で所蔵されていた時にこの書き込みが行われたのであろう。『万有書誌』



図2 早稲田大学図書館所蔵ゲスナー『万有書誌』(F026-36)空押し豚革装丁

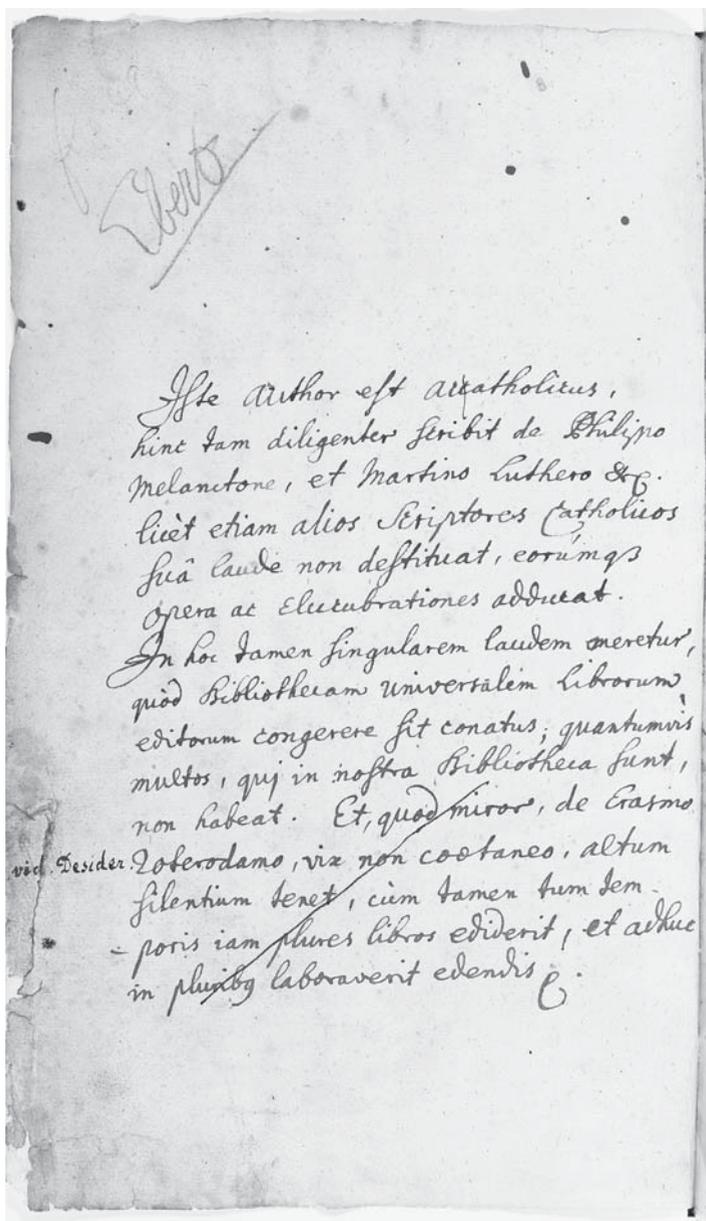


図3 早稲田大学図書館所蔵『万有書誌』(F026-36) 巻頭フライリーの書き込み

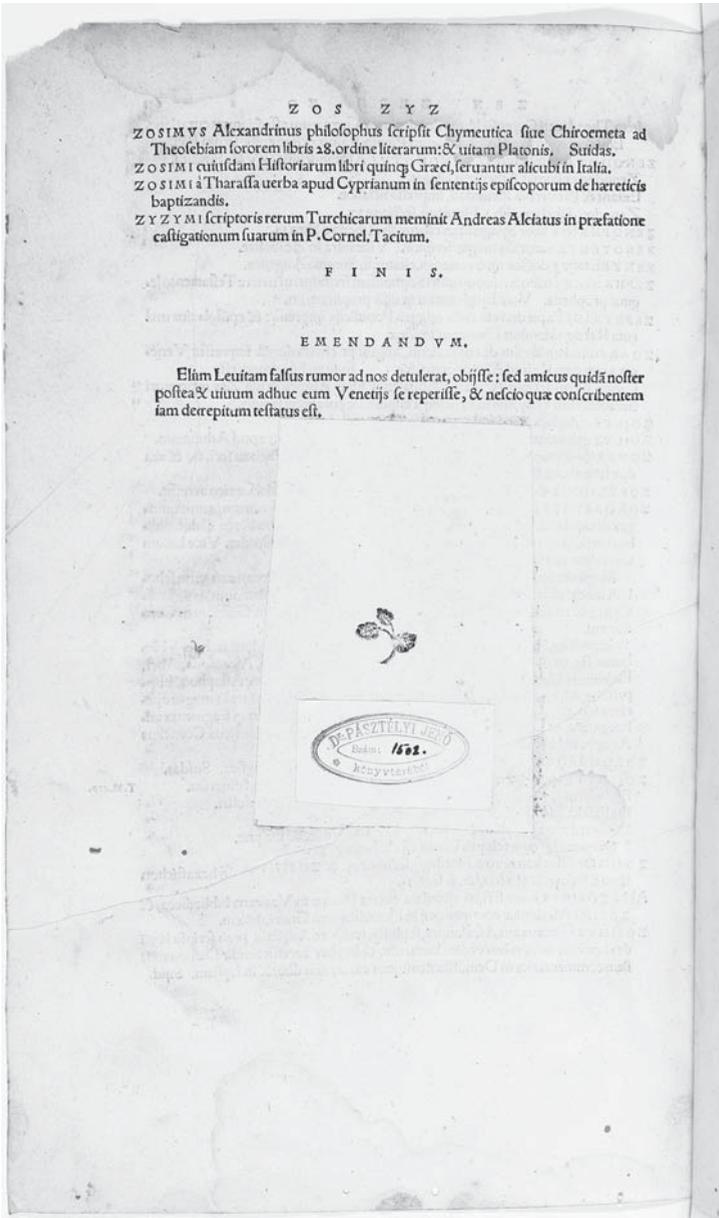


図4 早稲田大学図書館所蔵『万有書誌』(F026-36) NN7^o に貼付された蔵書印

は刊行後まもなく禁書目録に掲載されたため、カトリックを信仰する地域では所有は禁じられたが⁹⁾、書き込みから判断する限りでは、この修道院では、本書が非カトリック教徒の著作であるが、プロテスタント教徒著者ばかりでなくカトリックの著者も収録しており、膨大な出版物を収録している点を評価して所蔵を続けたようだ。しかし、エラスムスが検索できないためエラスムスの項目が収録されていないと勘違いしている。実際にはエラスムスは名前 Desiderius で配列されている。それゆえ、後代に「Desider [ius] を見よ」という追記が行われて、この記述に対して斜めに大きく斜線が引かれて訂正されている。その後、19世紀初頭にナポレオンによるドイツ南部地方侵略で修道院財産の世俗化が進められて、修道院図書館の蔵書も没収されたり売却されたりした。その際に本書も市場に流出したと推定される。おそらく20世紀にハンガリーのパステリイ・イエネー (Pásztélyi Jenő) 博士の蔵書となった (図4)。そして、1992年7月にニューヨークの古書肆 Peter Tumarkin Fine Books から早稲田大学図書館が購入した。

3. チューリヒ中央図書館所蔵の『万有書誌』

ゲスナー『万有書誌』の研究調査のため、スイスのチューリヒ中央図書館が所蔵する『万有書誌』4部を2013年8月と2014年8月の2回閲覧した。閲覧した資料は以下の通りである。

- Dr M 3 (Konrad Gessner's copy) (以降 A コピーとする)
- IV O 2 (Konrad Pellikan's copy) (以降 B コピーとする)
- IV O 4 & IV O 5 (bound in 2) (以降 C コピーとする)
- 5.12 (Konrad Klause's copy) (以降 D コピーとする)

これら4部のうち調査の中心はゲスナー旧蔵の A コピーである。ゲス

ナーはそこに大量の書き込みを行った。A コピーは近年装丁が全面的に改装されたが、ページ寸法は350 x 215mm であり、早稲田大学図書館所蔵本と比べて縦が28mm、横が15mm も大きく、おそらく元の料紙の寸法をほぼ保持しているものと思われる。第1 葉表の標題紙から巻末のフライリーフに至るまでゲスナー自身によってペンで訂正追加が書き込まれている⁽¹⁰⁾。書き込みは、本文の訂正や削除、誤植や脱字の校正、人名項目の順序の入れ替えや項目の追加など多様である。最も激しい削除の跡はゲスナー自身の項目であり、fol.180^v では本文の21行目から49行目までに斜めに線を引いて削除している(図5)。また、遡及的な出版情報の追加や訂正、新規の出版情報の追加などが多数行われている。追加された新しい出版年から判断して、1550年代に至るまでゲスナーは本書に書き込みを続けていたと判断される⁽¹¹⁾。なお、本来巻頭の序文の次に置かれるべき著者名索引(A1-B4) が巻末に綴じ込まれており、ここでは人名の訂正や人名がアルファベット順通りになっていないものを順序通りにするために人名の入れ替えの指示が行われている。

今回の調査の結果、A コピーには早稲田大学図書館所蔵本とは異なる印刷箇所があることが判明した。A コピーでは fol.454^r (2g4^r) から fol.454^v (2g4^v) に掲載された IOANNES filius Serapionis (セラピオンの息子ヨハネス) の項目内の fol.454^v の4 行目から30行目に以下のような訂正線あるいは下線がペンで引かれていた(行番号は筆者による)(図6-1)。

Hi libri practicae seu breuiarij serapionis Basileae etiam nuper impressi sunt, 4
apud Henricum Petrum, 1543. in fol. duplo ferè chartarum numero, quàm prius 5
in Italia exiuerat: quamuis ultimus liber de antidotis non sit adiectus. ~~Nam egregius ille paraphrastes~~ Albanus Torinus nouo titulo plausibilem Basileiën, aeditionē
fecit, Iani Damasceni Decapolitani nomine inducto pro Ioan. Serapione, & ab initio aphorismos etiam antehac Ioanni Damasceno inscriptos adiecit, ~~ut minus dolium olfacerer~~ Lector, & ultimū librum de antidotis omisit : caeteros in medio miris 10

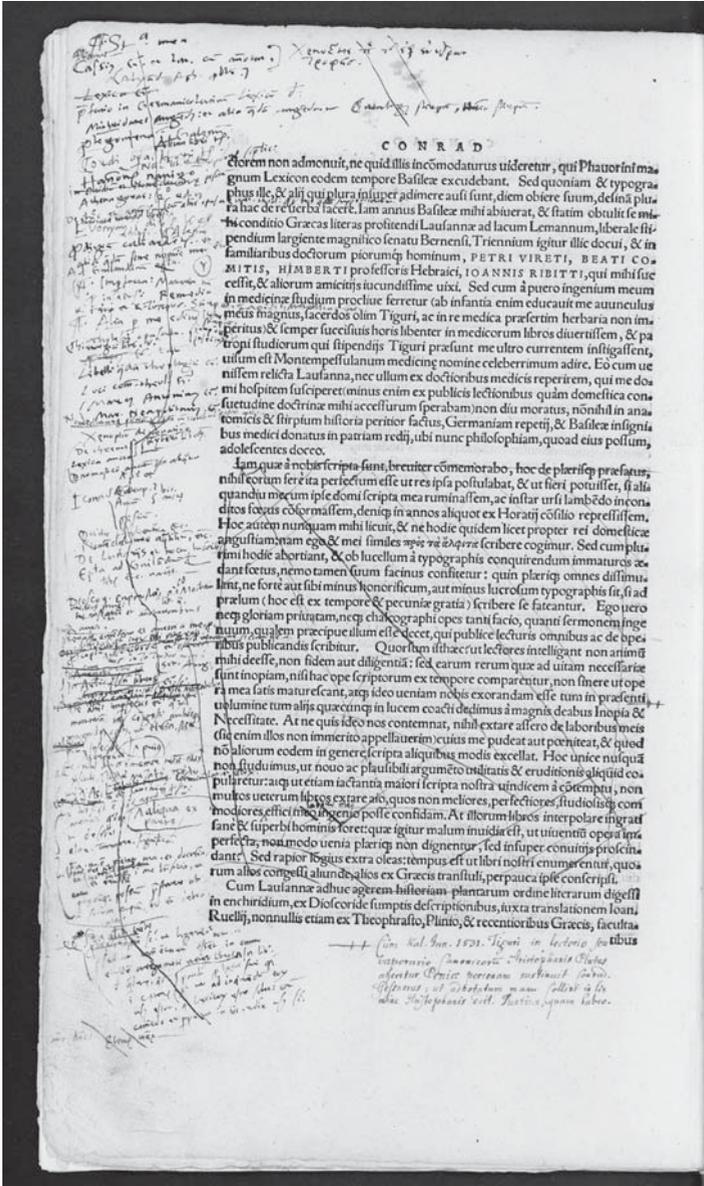


図5 チューリヒ中央図書館所蔵のゲスナー旧蔵『万有書誌』(Zentralbibliothek Zürich, Dr M 3) fol.180^vに見られるゲスナー自身の項目の削除の跡

modis interpolauit : nam & transponit ordinem : & in illis libris, ubi Gerardi Cre-
 monensis translationem se relinquere fatetur, plurima mutat, & sues centones an-
 nectit, ac pro barbaris saepe Gerardi uocabulis ipse affecta & obsoleta infarcit: in
 illis uero, quos de integro bellula paraphrasi sua uerit aut potius peruertit, uocabu-
 lis immoratur, prolixus esy de industri, & tanquam scholia pro tyronibus inserat, 15
 gratiam breuitatis quam aucupatus erat Serapion amittit. Sed nihil grauius di-
 cam, quamis uehementer mihi displicet sucum emptoribus fieri, & absq(ue) fructu
naenias huiusmodi & brassicam biscoctam miseris Lectoribus obtrudi, Siquidem
& ipse diuersorum authorum opera esse hucusq(ue) ratus (nam ne supra quidē cum
de Iano & Ioanne Damaseo scriberem, aliter existimabam) utrūq(ue) mihi compa- 20
rare, 6 utriusq(ue) lectioni temporis nonnihil dare iam decreuerā, quod posthac mi-
nime sciam: malo enim Gerardi translationem integram, hominis utcunq(ue) Ara-
bicae linguae peritu, & simplicem Serapioni sententiam, quā Albani, qui ne Iota
quide eius linguae callet, paragraphses inani ostentatione plenas, & undequaq(ue) con-
sarcinatas. In epistola nuncpatoria scribit se nuper hoc opus in bilbiotheca qua 25
dam inuenisse: nimirum ut quis rem deprehenderet, ignorantia potius publicatae
prius aeditionis, quam astutia illiendi emptores, fecisse quod fecit excusari posset.
Opinor autem etiam in Garoponto & Alexandro Iatro, & & alijs quibusdam, non
dissimilia machinatum esse: quare lectorē medicunae studiosum admoneo, si quid
proficere uelit, libros Albani nomine insignitos ne magni faciat. 30

さらに、このページの下方欄外余白 (lower margin) に11行分の文章が
 印刷された紙片が貼付されていた (図6-1)。この11行の文章はチューリヒ
 中央図書館所蔵のBコピーの該当箇所を参照すると、fol.454^vの4行目か
 ら14行目までの11行分の本文であることを確認することができた (図6-
 2)。紙片は余白にピッタリと貼付されているため裏面を確認することは
 できなかった。また、次の fol.455^r (2g5) の下方欄外余白には18行分が印刷
 された紙片が貼付されていた (図7)。この紙片の裏側にも文章が印刷さ

れており、その最初の行をかろうじて読むことができた。その文章は『万有書誌』 fol.454^r の15行目の文章と一致していた。つまり、貼付された紙片の文章は本印刷されたものであり、校正刷りのようなものではない。さらに、この紙片に印刷されている18行分の文章を B コピーの fol.454^v と比較すると、B コピーの15行目から32行目までと一致した (図6-2)。

新しい4-32行の文章を B コピーに基づいて以下に引用する (行番号、下線は筆者による) (図6-2)。

Hi libri practicae seu breuiarij serapionis Basileae etiam nuper impressi sunt, 4
 apud Henricum Petrum, 1543. in fol. duplo ferè chartarum numero, quàm prius 5
 in Italia exiuerat: quamuis ultimus liber de antidotis non sit adiectus. Nam para=
 phrastes (ut se inscribere uoluit) Albanus Torinus nouo titulo plausibilem Basilien
 sem aeditionē fecit Iani Damasceni Decapolitani nomine inducro pro Ioanne se=
 rapione, & ab initio aphorismos etiam antehac Ioanni Damasceno inscriptos (ne=
scio quàm recte, in libello seorsim aedito) adiecit, ceteros in medio interpolauit: nam 10
 & ordinem transponit, & in illis libris, ubi Gerardi Cremonensis translationē se re=
 linquere fatetur, plurima mutat. In epistola nuncupatoria scribit se nuper hoc opus
 in bilbiotheca quadam inuenisse, tanquam nesciuerit idem prius publicatū fuisse,
ac medicis omnibus notissimum.

Quod autē alius sit Ioannes siue Ianus, ut illis placet, Damascenus Theologus, 15
 & Ioan. filius Serapionis, quos multi confundunt & pro uno autore numerant,
 non difficile mihi probatu uidetur. Legimus enim Io. Damascenū fuisse theologū,
 & uixisse circiter annū à natiuitate Domini quadringentesimū: nec ullus ex ueteri
 bus & probatis authoribus inter medicos Io. Damascenū recenset, Io. Serapionis
 autem medicus fuit, & ut apparet ex initijs librorū eius, regione, lingua, & tempo=
 20
 re, non Christianus, sed Mahometricae superstitionis cultor, ut reliqui opinor fere
 omnes medici Arabes: quorū hunc recentissimū extitisse conijcio, cū plerasq<ue> alios
 in scriptis suis alleget, ac inter alios filium Mesuei, qui si est Ioannes Mesaei filius

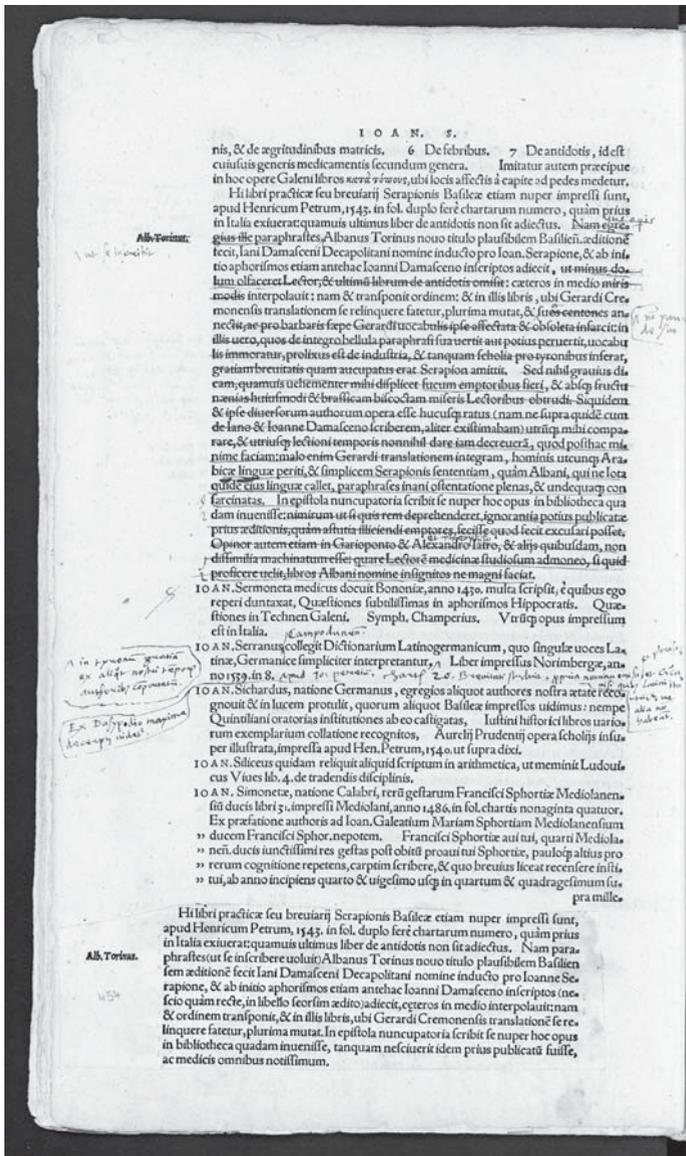


図6-1 チューリヒ中央図書館所蔵のゲスナー旧蔵の『万有書誌』(Zentralbibliothek Zürich, Dr M 3) fol.454^vに見られるゲスナー自身による4-30行の訂正と下方欄外余白に貼付された11行の本文が印刷された紙片。



図6-2 チューリヒ中央図書館所蔵『万有書誌』Bコピー (Zentralbibliothek Zürich, IV O 2) の fol.454^v

quem claruisse diximus circa annum Domini, 1158 necesse est aut aequalē ei fuisse
aut posteriorem quoq<ue> Io. Serapionis filium. Sed potius uidico aequales quo= 25
niam uterq<ue> alterius scriptis allegatis utitur. De Io. Damasceno theologo uide Li=
lium Gyraldum in uitis poëtarum dialogo 5. ubi diuersas sententias refert quo tem
pore uixerit: maxime tamē probat testimoniū Io. Patriarchae Hierosolymitani, qui
in uita eius Leonis imperatoris aetati eū adnumerat, qui imperauit circiter annum,
742. Quod si etiam Io. Serapionis è Damasco natus fuerit, nō sequitur statim eun= 30
dem esse Ioannem Damascenum simpliciter, cum & Mesuaei filius eiusdem origi=
nis idem praenomen habuerit.

A コピーでゲスナーが削除せずに残した文章と B コピーの文章が相当に一致していることが明らかである。つまり、ゲスナーは A コピーに直接校正を施して、4-30行の多くの箇所に削除を施して、B コピーの4-14行の11行分の文章に縮めながら、下線部の文章を追加したと言えよう。そして、15-32行目に新たな文章を作成して挿入した。ゲスナーは挿入した文章の中でこの項目の「セラピオンの息子ヨハネス」(Ibn Sarābi) と混同されているヨハネス・セラピオン (Yaḥyā b. Sarāfyūn) や同時代の神学者 Janus あるいは Johannes Damascenus との関係について説明しながら¹²⁾、その他のアラビア医学者についても言及して著者に関する補足説明を加えている。

この事実から判断すれば、fol.454^v は印刷し直されていたことになる。A コピーがゲスナー旧蔵の手沢本であることを考慮すれば、これら二枚の紙片を貼付したのはゲスナー本人であることに疑いはなからう。つまり、ゲスナーは最初に印刷された fol.454^v を見て訂正、追加の必要性を感じて、すぐに4-32行分の原稿を作り直して印刷に回した。そして、新しい2段落の文章を段落ごとに2つの紙片に切り取って A コピーの fol.454^v と fol.455^r の下方欄外余白に貼付して、刷り直したことを記録に残そうとしたのであろう。しかしながら、新しい文章の原稿あるいは草稿は A コピー

に見つけることはできず、ゲスナーがこの文章をどのように作成して印刷者に指示したのかは明らかでない。

チューリヒ中央図書館所蔵の4コピーをこの箇所について比較すると、Aコピー=Cコピー、Bコピー=Dコピーであった。Cコピーの該当箇所の第30行目の左余白に手書きで人差し指(index)の絵が描かれていて、注意を促しているが(図8)、具体的にどの点に注意すべきかについては記されていない。さらに、2014年8月にスイスのバーゼル大学図書館所蔵のコピー(請求記号BL I 1)を調査したところ、Bコピーと同様であることが確認できた。このコピーはバーゼルの15-16世紀印刷業の繁栄の基礎を築いた印刷出版業者ヨハネス・アマーバッハ(Amerbach, Johannes, 1441?-1513)の孫で書物収集家のバシリウス2世(Amerbach, Basilius II, 1533-1591)が所蔵していたものである。彼の生年を考慮すれば、彼は本書出版後しばらくしてからこのコピーを入手したことになる。このコピーに彼はいくつかの出版情報を書き込んでいた。また、日本国内では『万有書誌』は早稲田大学図書館のほかに管見の限りでは慶應義塾図書館、明治大学図書館(The Society of Writers to the Signet 旧蔵書)、広島経済大学図書館にそれぞれ1コピーが所蔵されている。2013年度にそれらを調査した際にこの箇所の状態を確認した結果、早稲田大学本(図9)を含めてそれらすべてはBコピーと同様の状態であった。したがって、今回の調査では該当箇所がAコピーと同じテキストであったのはチューリヒ中央図書館所蔵のCコピーのみであった。

4. 『万有書誌』の印刷事情

以上のような調査によって『万有書誌』の成立過程の一端が明らかになってきた。ゲスナーの訂正追加の結果、刷り直した文章は元の文章よりも31-32行の2行分が増加していたため、Aコピーのfol.454^vの31行目から37行目に掲載されたIOAN. SemonetaとIOAN. Serranusの項目の7行

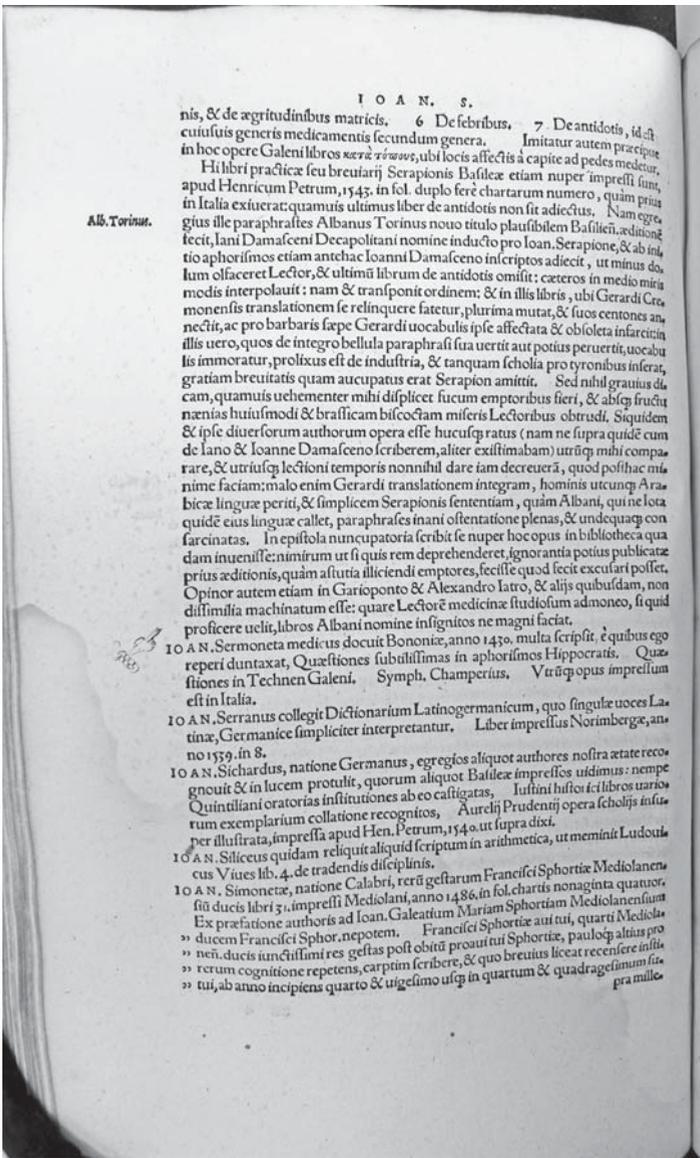


図8 チューリヒ中央図書館所蔵『万有書誌』Cコピー（Zentralbibliothek Zürich, IV 0 4 & IV 0 5）fol.145^v第30行の左余白に人差し指（index）の図が書き込まれている

nis, & de ægritudinibus matricis. 6 De febribus. 7 De antidotis, id est cuiusvis generis medicamentis secundum genera. Imitatur autem præcipue in hoc opere Galeni libros *κατὰ τῶν ὀντων*, ubi locis affectis à capite ad pedes medetur.

Alb. Torinus.

Hi libri practicæ seu breuiarij Serapionis Basileæ etiam nuper impressi sunt, apud Henricum Petrum, 1543. in fol. duplo ferè chartarum numero, quàm prius in Italia extiterat; quamvis ultimus liber de antidotis non sit adiectus. Nam paraphrases (ut se inscribere uoluit) Albanus Torinus nouo titulo plausibilem Basiliensem additionem fecit Iani Damasceni Decapolitani nomine inducto pro Ioanne Serapione, & ab initio aphorismos etiam antehac Ioanni Damasceno inscriptos (ne scio quàm recte, in libello seorsim adito) adiecit, ceteros in medio interpolauit: nam & ordinem transponit, & in illis libris, ubi Gerardi Cremonensis translatione se relinquere fatetur, plurima mutat. In epistola nuncupatoria scribit se nuper hoc opus in bibliotheca quadam inuenisse, tanquam neciuerit idem prius publicatū fuisse, ac medicis omnibus notissimum.

Quod autè alius sit Ioannes siue Ianus, ut illis placet, Damascenus Theologus, & Ioan. filius Serapionis, quos multi confundunt & pro uo auctore numerant, non difficile mihi probatu uidetur. Legimus enim Io. Damascenū fuisse theologū, & uixisse circiter annū à natiuitate Domini quadringentesimū: nec ullus ex ueteribus & probatis authoribus inter medicos Io. Damascenū recenset. Io. Serapionis autem medicus fuit, & ut apparet ex initijs librorū eius, regione, lingua, & tempore, non Christianus, sed Mahometicæ superstitionis cultor, ut reliqui opinor ferè omnes medici Arabes: quorū hunc recentissimū extitisse conijcio, cū plerōsq; alios in scriptis suis alleget, ac inter alios filium Mesuæ, qui si est Ioannes Mesuæ filius quem claruisse diximus circa annum Domini, 1158. necesse est aut æquale ei fuisse aut posteriorem quoq; Io. Serapionis filium. Sed potius iudico æquales fuisse, quoniam uterq; alterius scriptis allegatis utitur. De Io. Damasceno theologo uide Liliū Gyraldum in uitis poetarum dialogo 5. ubi diuersas sententias refert quo tempore uixerit: maxime tamē probat testimonio Iō. Patriarchæ Hierosolymitani, qui in uita eius Leonis imperatoris ætati eū adnumerat, qui imperauit circiter annum, 742. Quod si etiam Io. Serapionis è Damasco natus fuerit, nō sequitur statim eundem esse Ioannem Damascenum simpliciter, cum & Mesuæ filius eiusdem originis idem prænomen habuerit.

IOAN. Sermoneta medicus docuit Bononiæ, anno 1430. multa scripsit, è quib. egoreperi dūtaxat, Quæstiones subtilissimas in aphorismos Hippocratis. Quæstiones in Technen Galeni. Symph. Chamberius. Vtrūq; opus impressum est in Italia.

IOAN. Serranus collegit Dictionariū Latinogermanicū, quo singulæ uoces Latine, Germanice simpliciter interpretantur. Liber impress. Norimbergæ, anno 1539. in 8.

IOAN. Sichardus, natione Germanus, egregios aliquot auctores nostræ ætate recognouit & in lucem protulit, quorum aliquot Basileæ impressus uidimus: nempe Quintiliani oratorias institutiones ab eo castigatas, Iustini historici libros uariorum exemplarium collatione recognitos, Aurelij Prudentij opera scholijs insuper illustrata, impressa apud Hen. Petrum, 1540. ut supra dixi.

IOAN. Siliceus quidam reliquit aliquid scriptum in arithmetica, ut meminit Ludouicus Viues lib. 4. de tradendis disciplinis.

IOAN. Simoneta, natione Calabri, rerū gestarum Francisci Sphortie Mediolanensis ducis libri 31. impressi Mediolani, anno 1486. in fol. chartis nonaginta quatuor. Ex præfatione authoris ad Ioan. Galeatium Mariam Sphortiam Mediolanensem

» duces Francisci Sphor. nepotem. Francisci Sphortie aut tui, quarti Mediolani, ducis iunctissimæ res gestas post obitū proauitui Sphortie, pauloq; altius pro rerum cognitione repetens, carptim scribere, & quo breuius liceat recensere institui, ab anno incipiens quarto & uigesimo usq; in quartum & quadragessimum suum milie.

分を手直しする必要があるが生じた。実際には、A コピーの 7 行分が B コピーでは 33-37 行の 5 行に圧縮され、上記の 2 行分の増加を吸収していた。A コピーにおける本文は次の通りである（行番号は筆者による）（図 6-1）。

IOAN. Sermoneta medicus docuit bononiae, anno 1430. mula scripsit; è quibus ego 31
reperi duntaxat, Wuæstiones subtilissimas in aphorismos Hippocratis. Quæ=
stiones in Technen Galeni. Sumph. Champerius. Vtru<m>q<ue> opus impressum
est in Italia.

IOAN. Serranus collegit Dictionarium Latinogermanicum, quo singulae uoces La= 35
tinae. Germanice simpliciter interpretantur. Liber impressus Norimbergae, an=
no 1539. in 8.

B コピーでは以下のように縮約語を増やし、空きスペースを詰めて文章自体は変えずに 5 行に詰め込んでいる（行番号は筆者による）（図 6-2）。

IOAN. Sermoneta medicus docuit Bononiae, anno 1430. multa scripsit è quibus ego re= 33
peri du<m>taxat, Quaestiones subtilissimas in aphorismos Hippocratis. Quaestiones
in Technen Galeni. Symph. Champerius. Vtru<m>q<ue> opus impressum est in Italia. 35

IOAN. Serranus collegit dictionariū Latinogermanicū, quo singulae uoces Latinae,
Germanice simmpliciter interpretant'. Liber impress. Norimberge anno 1539. in 8.

このような組版技術によって本文の大幅な変更もこのページ内に収めることができたのである。

ところが、さらに A コピーと B コピーを比較しながら仔細に検討を進めると、組版の変更は fol.454^v にととまらず、fol.453^r (2g3^r) から fol.454^v (2g4^v) にかけて行われていることが判明した。各ページの変更箇所は A コピーと B コピーを対比して表 1 にまとめた。両者には組版上の活字の位置関係が相違している箇所があり、また行末の単語が次の行に渡る場合に

表 1

Dr M 3 (A)	IV O 2 (B)
453 ^r , head-line & line 1 (图10-1): I O A N. S. 453 ... ordinis fratrum Minorum, natione Teuthonicus, in diuinis	453 ^r , head-line & line 1 (图10-2): I O A N. S. 453 ... ordinis fratrum Minorum, natione Teuthonicus, in duinis
453 ^r , line 2-3: ... eruditus, & in iure canonico, ... casibus, lib. I.	453 ^r , line 2-3: ... eruditus, & in iure canonico, ... casibus, lib. I.
453 ^r , line 44: ... Gerson in cer=	453 ^r , line 44: ... Gerson in cer
453 ^v , head-line-line 2 (图11-1): I O A N. S. ... adhuc sequi solent. ... obedientia. 4.	453 ^v , head-line-line 2 (图11-2): I O A N. S. ... adhuc sequi solent. ... obedientia. 4.
453 ^v , line 46: ... Subtilis, sed alter qui=	453 ^v , line 46: ... Subtilis, sed alter qui
454 ^f , line 1-2 (图12-1): ... Cuspiniani. ... Gryphiū in 4. anno	454 ^f , line 1-2 (图12-2): ... Cuspiniani. ... Gryphiū in 4. anno
454 ^f , line 5: ... citatur etiam in Chro	454 ^f , line 5: ... citatur etiam in Chro=
454 ^f , line 41: ... Octauianus Scotus impres	454 ^f , line 41: ... Octauianus Scotus impres=
454 ^f , line 47: ... 2 Oculorum, au	454 ^f , line 47: ... 2 Oculorum, au=
454 ^v , head-line -line 1 (图6-1): I O A N. S. ... matricis. 6 De febribus	454 ^v , head-line -line 1 (图6-2): I O A N. S. ... matricis. 6 De febribus.
版面寸法	
Dimension of printed areas (headline+52 lines+direction line, with marginalia)	
453 ^r (2g3 ^r): 237 (247) x 137 (157)	453 ^r (2g3 ^r): 240 (249) x 138 (158)
453 ^v (2g3 ^v): 237 (246) x 137 (157)	453 ^v (2g3 ^v): 238 (247) x 137 (157)
454 ^f (2g4 ^f): 237 (247) x 137 (157)	454 ^f (2g4 ^f): 240 (248) x 138 (158)
454 ^v (2g4 ^v): 238 (246) x 137 (158)	454 ^v (2g4 ^v): 240 (248) x 138 (158)

B コピーではハイフンが出没していた箇所があったことから版を組み直していたことが明らかであった。このような版の組み直しの結果 fol.453^r から fol.454^v の版面の寸法 (Dimension of printed areas) も B コピーのほうがやや大きくなっていった。

以上のように fol.454^v の本文の変更によって、fol.453^r から fol.454^v、すなわち折丁 2g の 3 枚目と 4 枚目を構成する 4 ページ分 1 シートの組版 (外版 outer forme=2g3^r/2g4^v、内版 inner forme=2g3^v/2g4^r) が作り直されていたことが明らかになった。このように 4 ページ分 1 シートの組版を作り直す必要が生じた原因は、おそらく最初の組版での印刷が終了した後で、修正を加えた 1 シート分を印刷し直して、そのシートを最初に印刷したシートと差し替えるためであったのではなかろうか。

筆者が調査したいくつかのコピーではこのシートが差し替えられていた。A コピー以外では差し替えが済んでいないコピーは C コピーのみである。C コピーは 16 世紀当時に 2 分冊に製本されていた。旧蔵者は不明であるが、チューリヒで永く保存されてきたコピーである。一方、B コピーは、ゲスナーが『万有書誌』作成の際に参考にしたチューリヒの大聖堂グロスミュンスター (Grossmünster) の図書館蔵書目録を作成した聖書学者で図書館長であったコンラート・ペリカン (Pellikan, Konrad, 1478-1556) が所蔵していたものである。ペリカンが本書をどのように入手したのかは定かでないが、若きゲスナーと学者として図書館長としてすでに著名であったペリカンの関係を考慮すれば、ゲスナーがペリカンに贈呈したとみなすことは可能であろう。また、販売されてチューリヒから外に出て行ったバーゼル大学図書館や日本国内に所在するコピーはこの部分が差し換えられていた。わずかな例から結論めいたことを言うことは危険であるが、贈呈用や販売用のコピーは訂正箇所の差し替えが済んでいたが、ゲスナーあるいは印刷業者フロシャウアーの手元に残ったコピーの中には差し換えが済んでいないものがあつたではなかろうか。

I O A N N . S .

IOANNES de Saxonía, ordinis fratrum Minorum, natione Teuthonicus, in diuinis ⁴³⁵ _{P. d. d. 1414} scripturis eruditus, & in iure canonico, scripsit quaedam è quibus extat: ⁴³⁵ _{P. d. d. 1414}
 Summa de casibus ^{lib. 1.} _{lib. 1.} [¶] Et alia quae non uidi. * Omnia
 uidetur idem superiori, quem Trithemius Ioan. de Saxo nominat.
 IOAN. Saxonius, uel de Saxonía, alius ut uidetur à superiore, scripsit expositionem
 in Alchabij librum de iudicij astrorum. Impressa est Venetijs, 1491. in 4. ^{Nominis}
 IOAN. Schinttel, natione Germanus, uaria & iucunda in astronomia elaborauit
 Viennae in Austria.
 IOAN. Schonerus Caroloftadius, natione Germanus, mathematicus doctissimus,
 correxit & locupletauit tabulas astronomicas, quas uulgo, quia omni difficultate
 & obfcuritate carent, Resolutas uocant. Ex quibus cum erratorum, tum etiam
 fixorum siderum, motus, tam ad praeterita quam futura, quantumuis etiam longa
 facula, facillime calculari possunt. His accedit Ratio siue Apodixis 11. domori
 coeli Ioannis de Monteregio: & Praefatio Philippi Melanchth. in has tabulas, afro.
 22. & diuid. Praemittuntur autem his tabulis Documenta generalia ex regulis
 Arithmeticae de minutijis physycalibus pro usu harum tabularum necessaria.
 Ex praefatione Schoneri eodem tempore Norimbergae scripta. Operae pretium
 me facit uirum existimari, si motus eorum errantium, tum fixarum stellarum, earum,
 demq; longitudines & latitudines; itemq; coniunctiones, oppositiones, & aspectus
 luminarum & planetarum adinuicem; demq; etiam rationem aequationum 12. do.
 morum coeli, iuxta modum omnino rationabilem, quo usus est iam ante nos uir cae
 culis doctorum omnium incomparabilis Ioan. de Monteregio, in lucem uiderent:
 quae nunc omnia cura & diligentia mea non solum emendatiora, sed & iusta labo
 ris mei accessione locupletiora, auctioraq; habere possunt scholae, &c. Viro cur.
 renti calcar addere epistolae suis uoluerunt, uiri in omni rerum honestarum sci.
 tia excellentissimi Phil. Melanchthon, & Jac. Milichius.
 Eiusdem Globus Astronomicus, libellus excusus cum ipso instrumento.
 IOANNES Schodehouen, natione Teuthonicus, ordinis fratrum beatae Mariae fem.
 per uirginis de monte Carmeli, Prior Mechliniensis, scripsit ad utilitatem praedica
 torum uerbi Dei non spernenda uolumina: de quibus extant subiecta. Opus in
 signe de uirtutibus & omni materia praedicabili secundum ordinem alpha
 beti in duobus uoluminibus, quod praenotauit,
 Polypodium, lib. 2. Abscondunt se multi.
 Sermones uarij, lib. 1. ^{Al. Sermones & omni dicitur de regna uel de post. lib. 1.}
 Alia etiam nonnulla aedidit, quae ad manus nostras minime uenerunt.
 IOAN. Scholasticus, abbas fuit in monte Sina, Climacus cognomine, quod scala scri
 pserit, 30. gradibus coelum petentem, opus sane ipsa similitudine delectabile pari
 ter & utile, conuerfium polite ab Ambrosio monacho Camaldulensi. Raph.
 Volaterranus. Extat Graece Romae in Vaticana, scholij etiam adiectis Grae
 cis, per Heliam Cretensem.
 Scripsit & epistolas plures ad monachos, lib. 1. Et quaedam alia. ^{T. d. 146}
 In quibusdam locis, maxime ubi de hominis spiritali morificati impassibilitate tra
 ctat, à recentioribus theologis reprehenditur, sicut apud Ioannem de Gerfon in cer
 tis tractatibus inuenitur.
 Ioan. Scholasticus Climax, impressus Venetijs Ambrosio Camaldulensi, interpre
 tetarius enim corruptissime translatus habebatur; apud fratres de Sabio, 1531. in 8.
 chartis 24. Insunt autem haec, Prooemium. Vita auctoris.
 Epistola Io. abbatis Raitih ad Io. abbatem montis Sinai Scholasticum nuncupatum,
 Sermo primus de inanis uitae abrenuntiatione.
 De uacuitate ascensionum, 2. De peregrinatione, 3.

図10-1 チューリヒ中央図書館所蔵のグスナー旧蔵『万有書誌』(Zentralbibliothek Zürich, Dr M 3) fol.453^r

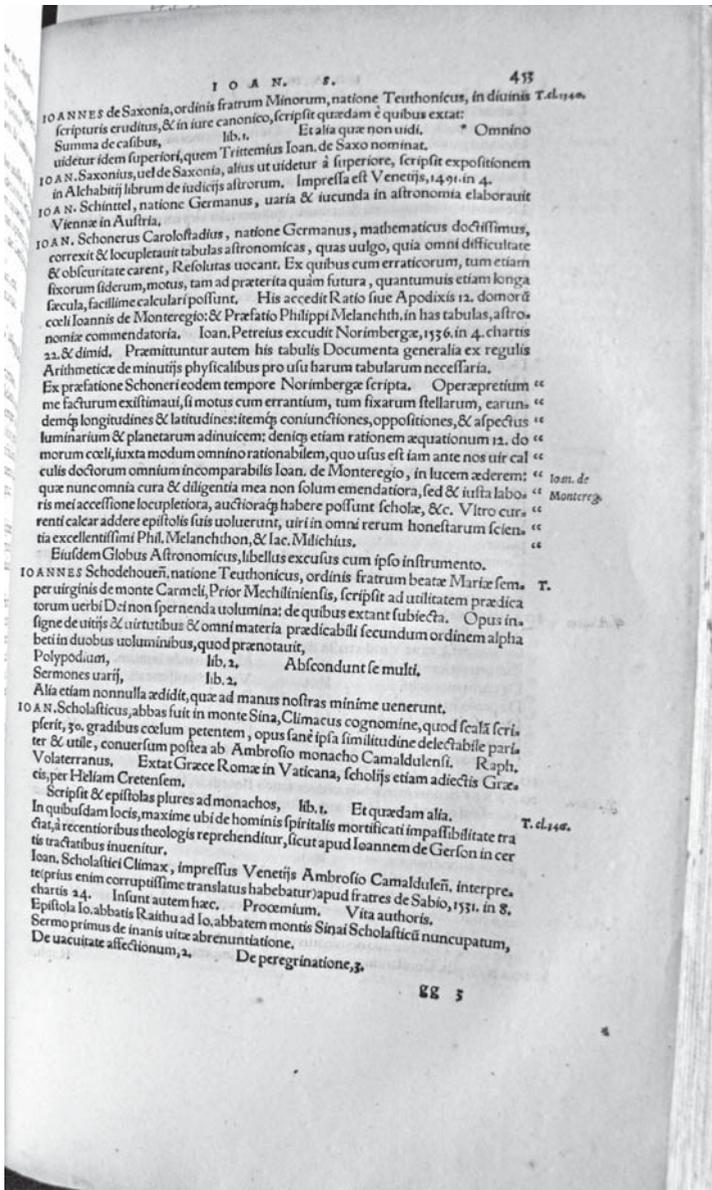


図10-2 チューリヒ中央図書館所蔵『万有書誌』(Zentralbibliothek Zürich, IV O 2) fol.453r

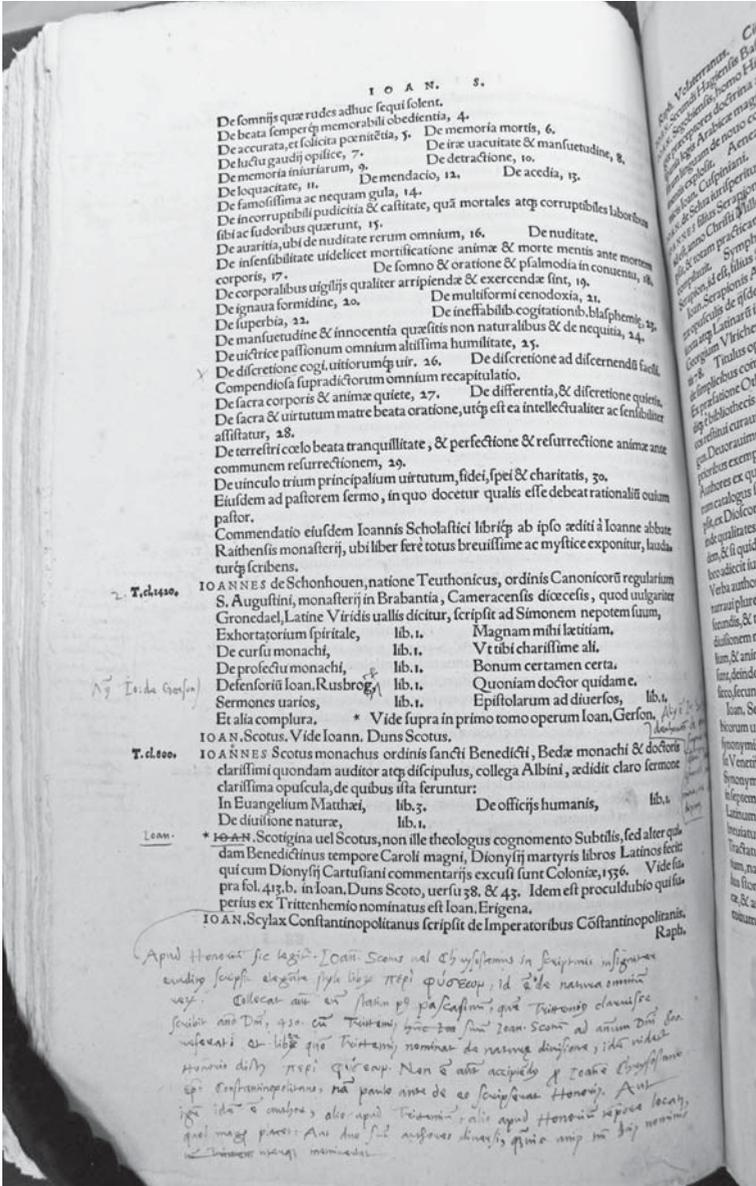


図11-1 チューリヒ中央図書館所蔵のゲスナー旧蔵『万有書誌』(Zentralbibliothek Zürich, Dr M 3) fol.453v

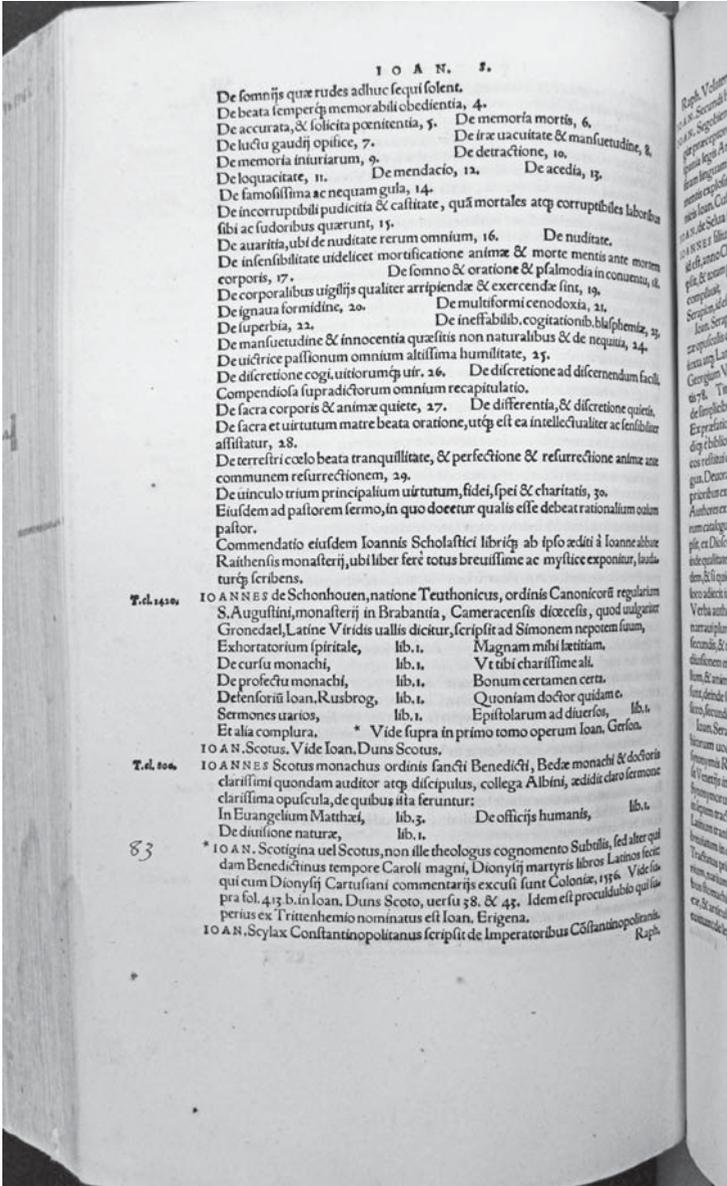


図11-2 チューリヒ中央図書館所蔵『万有書誌』(Zentralbibliothek Zürich, IV O 2) fol.453^v

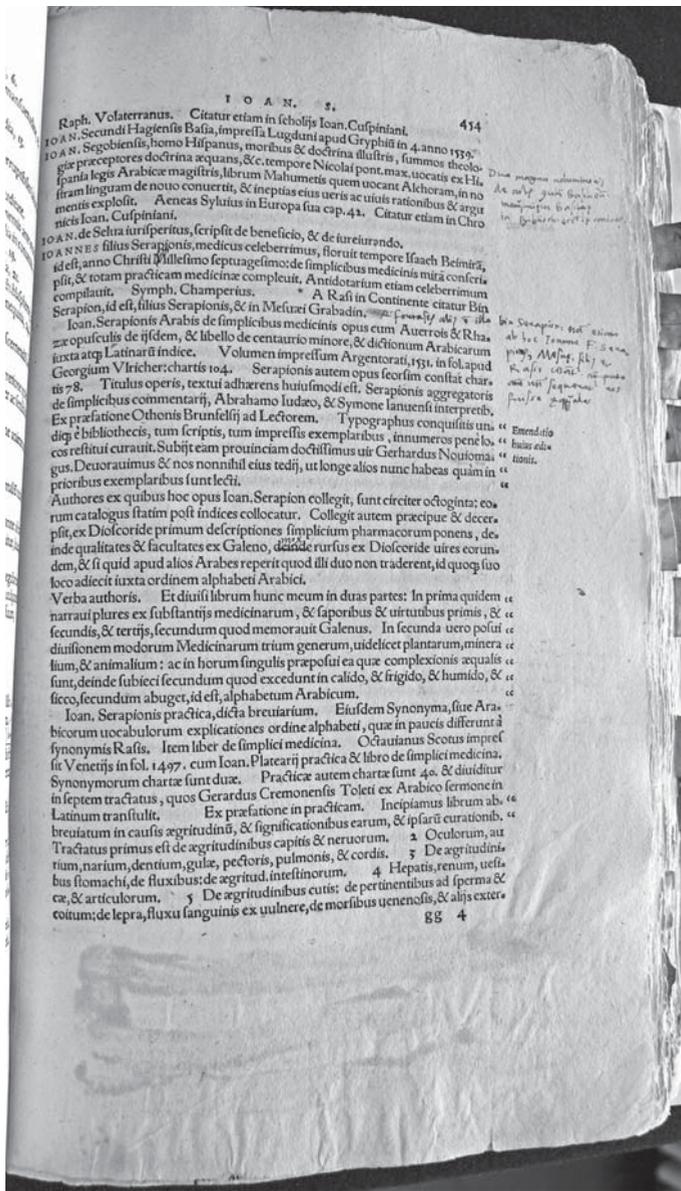


図2-1 チューリヒ中央図書館所蔵のゲスナー旧蔵『万有書誌』(Zentralbibliothek Zürich, Dr M 3) fol.454r

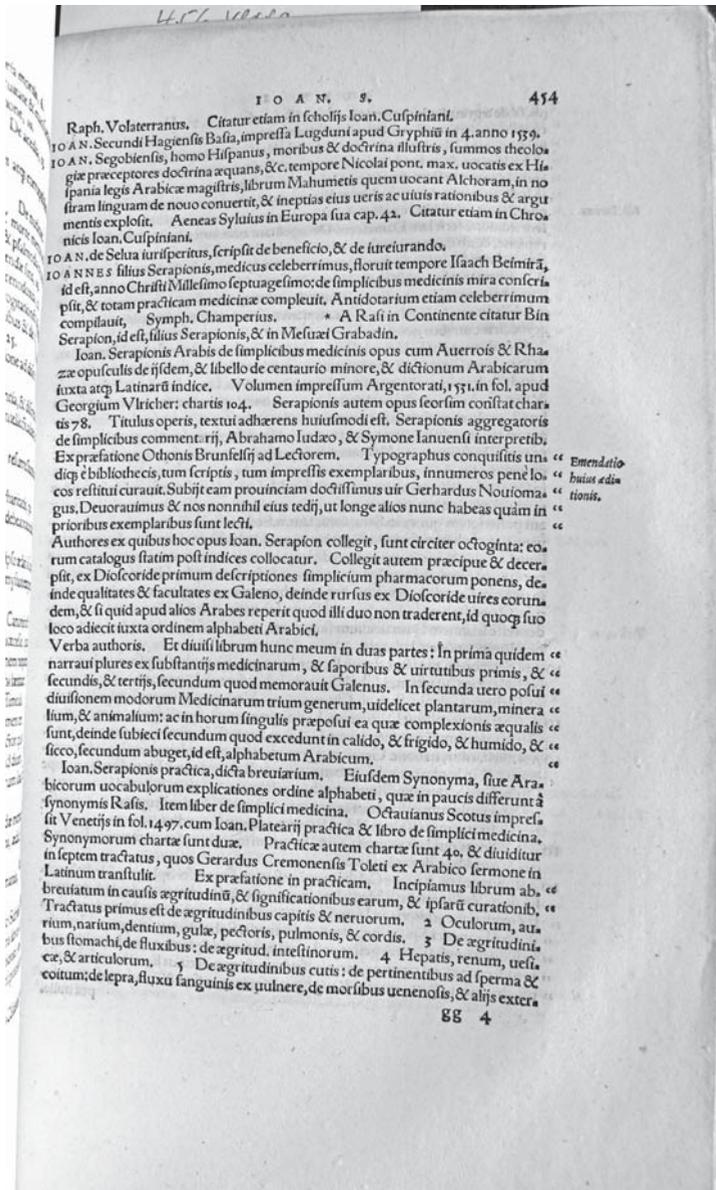


図12-2 チューリヒ中央図書館所蔵『万有書誌』(Zentralbibliothek Zürich, IV O 2) fol.454^r

5. おわりに

以上述べてきたように、今回の調査によって『万有書誌』には印刷ヴァリエーションのあるコピーの存在が明らかになった。ゲスナーが多数の書込みをした自筆手沢本は fol.453r から fol.454v までが最初の印刷の状態を保持するコピーであり、早稲田大学図書館所蔵本および日本国内に所在するその他3コピーは fol.454^v がゲスナーによって修正されたテキストになったもので、fol.453r から fol.454v までが刷り直されてシートごと差し替えられたものであったことが判明した。

こうした紙葉の差し換えを西洋書誌学ではキャンセル (Cancel) と言い、何らかの修正の必要性がある取り替えられるべき紙葉を cancellandum、修正した新しい紙葉を cancellans と呼んでいるが、通常のカンセルは1葉単位で行われているため、折丁の調査の際に発見される場合が多いが、上記のように1ページ内の修正にも拘わらず、2葉分1シートが取り換えられたキャンセルは折丁の調査では発見することは極めて困難である。今回の発見はゲスナーが手沢本の cancellandum にわざわざ cancellans を切り取って貼付していたことで見つけることができたが、そのような記録を残していなければこの IOAN. filius Serapionis の項目を特別に調査しない限りは見つけることは難しかったであろう。

ゲスナーが A コピーに紙片を貼付した例はその他の箇所にも少なからず見られる。例えば、fol.462^r と 553^r にも書名が印刷された細長い小さな紙片が貼付されている。しかしながら、それらがその箇所を刷り直した紙葉を切り取ったものではないことは印刷された活字が『万有書誌』の活字ではないことから判断できるため、本書の多くの箇所に書き込まれた訂正追加と同様なものである。ところが、ゲスナーが A コピーに行った書き込みの中には1文字のみの訂正や数単語程度の訂正や挿入は無数にあるが、そのような単純ないわば修正箇所を直して印刷した形跡は今回の調査では見つけることができなかった。この点を考慮すると、なぜ fol.454^v のよう

な比較的大きな訂正追加箇所だけ版を組み直して印刷して差し替えを行ったにもかかわらず、印刷の途中でも修正が容易な単純な単語の訂正は行わなかったのかという印刷工程上の疑問が浮上する。実際に fol.454^v の18行にわたる新たに追加された文章は絶対になくしてはならないほど緊急性の高い内容ではなく、また是非とも挿入しなければならないような新しい情報が含まれているわけではない。ちなみに、『万有書誌』は1545年9月に刊行されたが、ゲスナーはその直前の夏にアウクスブルクを訪問して豪商フッガー (Fugger, Johann Jacob, 1516-1575) の図書館とアウクスブルク市の図書館を調査してその情報を少なからず本書に追加しているため⁽¹³⁾、印刷作業は相当に切羽詰っていたはずである。それにもかかわらず、この箇所だけを刷り直すほどの大きな理由があったのであろうか。

今回発見した版の組み直しによる差し替えシートの印刷という事実は『万有書誌』の成立過程の一端を明らかにしたが、この箇所以外には刷り直された箇所がないとは現時点では断言できない。そのため、他の箇所でもこのような刷り直しが行われていないかどうか、そしてかなり限られた時間の中でなぜこの箇所の刷り直しが必要であったのかという新たな問題点が明らかになった。これらの問題点を今後の調査の中で解明していかなければならない。

謝辞：チューリヒ中央図書館所蔵のゲスナー『万有書誌』の調査に当たっては同図書館古版本部 (Abteilung Alte Drucke und Rara) に大変お世話になりました。『万有書誌』4コピーを研究させていただき、自由な写真撮影を許可していただき、本誌への掲載の許可もいただきました。ここに衷心より謝して感謝の意を表します。

付記：本研究は JSPS 科研費25330401の助成を受けたものです。

注

- (1) 日本におけるゲスナー『万有書誌』第1巻の書誌学的な研究には次のものがある。戸田慎一「コンラート・ゲスナー：その生い立ちから青年期まで」『書誌索

- 引展望』9巻3号、1985、p.1-13；同氏「*Bibliotheca universalis* 編纂のための情報源」『図書館学会年報』Vol. 33, No. 1, 1987, p.1-9；拙稿「コンラート・ゲスナー『万有書誌』の書誌的源泉」『学術研究：教育学・生涯教育学・初等教育学編』59号、2010、p.47-71；拙稿「コンラート・ゲスナー『万有書誌』と宗教改革」『学術研究：人文科学・社会科学編』60号、2011、p.61-80；拙稿「コンラート・ゲスナー『万有書誌』の書誌記述要素の起源について」『学術研究：人文科学・社会科学編』61号、2012、p.91-116；拙稿「コンラート・ゲスナー『万有書誌』に収録された印刷本について」62号、2013、p.77-97。
- (2) ヨーロッパにおける『万有書誌』第1巻についての書誌学的研究としては次のものがある。Escher, H., Die Bibliothek universalis Konrad Gessner's, *Vierteljahresschrift der Naturforschungen Gesellschaft in Zürich*, 79, 1934, S.174-194; Besterman, T., *The beginnings of systematic bibliography*, Oxford: University Press, 1935; Escher, H., Konrad Gessner über Aufstellung und Katalogisierung von Bibliotheken, *Mélanges offerts à Marcel Godet*, Neuchâtel: Attinger, 1937, S.119-127; Balsamo, L., Il canone bibliografico di Konrad Gesner e il concetto di biblioteca pubblica del Cinquecento, *Studi di biblioteconomia e storia del libro in onore di Francesco Barbari*, Roma: Associazione italiana biblioteche, 1976, p.77-95; Serrai, A., *Conrad Gesner*, Roma: Bulzoni Editore, 1990; Serrai, A., *Storia della bibliografia, VII: Storia e critica della catalogazione bibliografica*, Roma: Bulzoni Editore, 1997; Serrai, A. e F. Sabba, *Profilo di storia della bibliografia*, Milano: Edizioni Sylvestre Bonnard, 2005; Sabba, F., *La 'Bibliotheca universalis' di Conrad Gesner: monumento della cultura europea*, Roma: Bulzoni Editore, 2012.
- (3) 本稿での書誌記述の原則は F. バウアーズの方法に基づく (Bowers, F., *Principles of bibliographical description*, Princeton, N.J.: Princeton University Press, 1949)。
- (4) Verzeichnis der im deutschen Sprachbereich erschienenen Drucke des 16. Jahrhunderts, URL: https://opacplus.bib-bvb.de/TouchPoint_touchpoint/start.do?SearchProfile=Altbestand&SearchType=2, (accessed 2014-10-17).
- (5) Vischer, M., *Bibliographie der Zürcher Druckschriften des 15. und 16. Jahrhunderts erarbeitet in der Zentralbibliothek Zürich*, Baden-Baden: Verlag Valentin Koerner, 1991.
- (6) 拙稿「コンラート・ゲスナー『万有書誌』の書誌的源泉」、p.51-52.
- (7) Vischer, M., op. cit., S.32-242.
- (8) *Ibid.*, S.243-350.
- (9) 拙稿「コンラート・ゲスナー『万有書誌』と宗教改革」、p.71-73.

コンラート・ゲスナー『万有書誌』の印刷ヴァリエントについて

- (10) ゲスナー手沢本『万有書誌』第1巻は今日ではスイスの15-18世紀印刷本のデジタル画像サイト e-rara で全文のデジタル画像が公開されている。e-rara, URL: <http://www.e-rara.ch/>, (accessed 2014-10-20).
- (11) Fol.298^v の Hali filius Abenragel Arabs の項目では 'et Basileae | apud Hen. Petri | 1551. ex emēdati= | one ...' という書き込みがあり、1551年以降に書き込んだことが明らかである。
- (12) 実際には Janus Damascenus と Johannes Damascenus は別人であり、前者はセラピオンの息子ヨハネスと同じ名前の Yaḥyā b. Sarāfyūn として知られた医者で、後者はその名で知られた神学者である (矢島裕利『アラビア科学史序説』岩波書店、1977、p.32-35)。
- (13) 拙稿「コンラート・ゲスナー『万有書誌』の書誌記述要素の起源について」、p.101-102.

(ゆきしま こういち 早稲田大学教育・総合科学学術院教授)